

時 報

昭和 36 年度 農業総産出額は 11.7%増し

農林省（統計調査部）は、このほど 36 年度中の農業総産出額および農業生産所々概算結果を発表した。

それによると、36 年度の農業総産出額は 1 兆 9,887 億円を前年の 1 兆 7,807 億円を 11.7%上回り、30 年度につぐ高い増加率を示している。これは農業粗生産の伸びは約 3%であったが、野菜、果実、畜産物などを中心とした農産物価格が 8%も上昇したためである。また 36 年度の物的支出は 7,000 億円程度で、前年度の 6,288 億円に比べ約 12%増加したものとみられる。これはひきつづいて購入飼料費が大巾に増加し、大農具の減価償却費などもかなり増加しているためである。

農業総産出額から物的支出をさしひいた農業生産所得は 1 兆 2,821 億円で、前年度に比べ 11.3%増加したものとみられる。農業所得率は 64.4%で、前年度のそれをやや下回る程度であったが、32—34 年度の所得率 66.4%に比べると一段と低下してきている。これは飼料費、大農具の減価償却費のいちじるしい増加のためである。

さらにその内訳でみると

(1) 産出額のものびがもっともけん著であったのは、前年度と同様に、野菜、果実、畜産物であった。畜産物については、一部の畜産物は値下りしたが、生産をみると豚が前年度より 50.2%増加し、生乳、鶏卵などもそれぞれ 12.1%、33.0%増加したので、畜産産出額としては、前年度の伸びを上回る 28.2%増大となっている。

(2) また農業総産出額の増加額のうち、74%は前記野菜、果実、畜産物の増加によるものである。このため総産出額にしめる主要品目の割合は、米は 35 年度に 50%台を割って 48.5%になったものが、さらに 44.9%と低下したのに対し、畜産物は 14.8%から 17.0%（第二位）へと上昇を続け、野菜の 7.7%から 9.4%（三位）がこれに次いでいる。

第7回獣医畜産学会の開催予定

第 7 回岡山県獣医畜産学会が 11 月 2 日岡山県庁でつぎのとおり開催される。

- 1、主催 岡山県、岡山県農業共済連、社団法人日本獣医師会
- 2、期日 11 月 2 日（金）午前 9 時
- 3、会場 岡山市内山下県庁 9 階ホール
- 4、行事

①研究発表 25 題

（1 題 8 分の発表として追加討論 2 分）

②岡山県獣医師大会開催 正午から午後 1 時まで

③特別講演 午後 1 時から午後 2 時 30 分まで

〔講師〕社団法人日本獣医師会会長 堀本宜実氏（参議院議員）

（備考）発表者中より 5 名を選考して中国地区学会（11 月 16 日～17 日鳥取）へ派遣される。

類別	会計年度		28	32	36 概算値
	25	27			
米	475,221	552,263	805,859	922,780	
麦	103,879	117,824	109,981	136,485	
やさい	65,518	87,088	110,430	192,464	
果実	32,451	42,057	78,310	131,379	
工芸作物	49,279	65,652	87,908	97,992	
畜産物	85,387	126,463	185,035	348,829	
農業総産出額	950,380	1,140,383	1,536,215	1,988,714	
所得率(%)	(73.31)	(67.00)	(66.21)	(64.47)	
生産所得	696,701	764,005	1,017,068	1,282,124	

（注）類別は主要のもののみあげ他は省略

畜産局長に村田氏就任

このほどの農林省の人事異動で森畜産局長の勇退にともない、前水産庁次長村田豊三氏が新局長として発令、就任した。

村田氏は山口県の出身で昭和 13 年東大法学部卒、農林省農地局経済課長、食糧庁総務課長、同業務部第二部長、水産庁次長を経て新局長となる。

牛乳の消費促進月間行事

牛乳を飲みましょう

“ミス牛乳”パレード

牛乳、乳製品の消費促進月間にちなんで催されたミス牛乳の選抜は、10月3日岡山市東田町の県農業会館で審査会が行なわれ、各農林事務所から推せんのがあった応募者24名の中から、はれて“ミス牛乳”に水島艶子さん(23)＝津山市、“準ミス牛乳”有宗美恵子さん(19)＝勝田郡奈義町、妹尾悦子さん(19)＝井原市が選ばれた。

牛乳を愛飲し健康美をほこるこれら三嬢は10月12日午後、岡山市内で行なわれた牛乳、乳製品消費促進パレードに参加しはなやかな色どりをそえた。

パレードにさき立って、県庁前東側広場で荒木県農林部長が挨拶し、牛乳消費優良団体として津山市牛乳消費組合連合会が表彰された。つづいてパレードは花火三発を合図に風船とハトが舞いあがり、飛来した宣伝用飛行機が花束を投下、知事に贈呈し、ついでミス牛乳にも花束が贈られ、風船と花で飾られたオープンカーに搭乗し、宣伝車とともに県庁前を出発、内山下、城下、柳川、大供、岡山駅前、弓之町など市内目抜き通りをパレードし、風船、チラシの配布、無料牛乳のサービスなどで牛乳の飲用を市民に呼びかけた。途中山陽新聞社前では同新聞から“ミス”に花束が贈られ、弓之町の県合同庁舎前では庁員や市民の出迎えを受け、ミス牛乳が風船を配り、牛乳の無料サービスなどでパレードの最後の気分が盛り上り、午後3時県庁前で解散した。

第1回近畿・中国・四国連合

食鶏共励会開催の予定

第1回の近畿・中国・四国連合食鶏共励会が来る11月13、4の二日間、大阪市福島区の大阪市中央卸売市場において、在阪道府県協議会の主催で開かれる。これは京阪神市場に常時食鶏を出荷している近隣地域の主要府県が協力して、食鶏の肥育技術を向上し、商品価値を高めようというもので、概要はつぎの要領で行なわれることになっている。

- 後援 農林省、参加各県および全販連大阪支所
- 出品条件 (1) 出品する食鶏は若どり (2) 出

品者は生産者またはその処理場を有する者(3)と体、骨付肉であること

- 出品申込 11月5日までに県畜産課経由申込み
- 品種 第一部肉用種 第二部交配種府県別の出品区分および点数

○審査 畜産物規格取引普及研究会食鶏部会「食鶏規格解説書」のと体品質標準にもとづいて行なう。

(摘要) (1) 1羽をもって1点とする。

アメリカの養鶏(米国養鶏視察団報告から)

日本の米国養鶏視察団が先月帰国、東京の馬事畜産会館において日本養鶏協会が主催して報告会を行なったが、その報告内容は今後の日本の養鶏界の進路を示唆するものをもっているようである。以下主要点を列記するとつぎのようである。

▽育種の改良は抗病性の付与に重点をおいている。ブロイラー生産は年間17億羽で、ここ数年で51倍に伸びた。一方需要の方は36倍となり、その差が過剰生産で、西独に約1億羽輸出している。また新市場として日本市場をねらっている。

オートメ化が進み、現在1人2万羽の管理ができるようになった。

▽アメリカでは授精率95%、育成率95%で、能力は平均240~260卵を保証、生存率は1カ年で90%という高率である。日本もこのままでは負けるので育種、ことにヘテロシスを最大に生かすことである。

▽アメリカの育種は経済性の付与に重点をおいている。1ケージに2~5羽収容のものが多く、また飼料単価を下げることに努力している。▽養鶏器具類は高値だが、部分的に重要なところには金をかけて非常に良いものを使っている。

▽アメリカには養鶏学校が

(摘要) (1) 1羽をもって1点とする。

府 県 名	肉用種	交配種	計
大阪・鳥取・岡山・香川・徳島 大阪市・三重・奈良・和歌山・兵庫・愛媛	各県共一〇	各県共二〇	一五〇
計	八六	一七二	二五八

岡山畜産便り 1962.10

あり、技術指導体制が整っている。日本でもこれを確立する必要がある。

▽鶏卵加工が盛んに行なわれている。20年前まで冷蔵が多かったが現在はほとんどやらない。卵価の調節は卵粉で行なっている。(資料日鶏情報)